

# 穂学



令和3年度  
広州日本人学校 学校便り  
[No.5]  
令和3年8月2日(月)  
発行責任者 校長 加藤康徳

## 「子どもの脳の栄養＝愛情について」

先日、小学部6年生の引率者として修学旅行に参加しました。私の役割は主に危機管理だったので、一步引いた位置で子どもたちの様子を見ていました。その中で感じたことは、本校の6年生はお互いを気遣いながら集団行動ができる子ども達であるということでした。また、その日の反省をお互いに話し合い、共通理解し、それを次の日の活動に生かすことができる子ども達だということも分かりました。この3日間、寝食を共にすることで教室では見ることができない子ども達の良さを実感することができて良かったです。今後教室を回るときの楽しみがまた違った意味で増えました。



<七星岩での集合写真>

前置きが少し長くなりました。ここからが本題となります。修学旅行の2日目、子ども達の就寝時間が過ぎた頃、翌日の天気予報を見るためにテレビを付けました。このホテルではNHKの番組が視聴できたのでついリモコンの指を止めました。その番組は解剖学者であり「バカの壁」の著者で有名な養老孟司氏と飼い猫とのドキュメンタリー番組でした。「バカの壁」は私も読ませて頂きました。うろ覚えではありますが「知ったつもりになっている人は、それ以上何かを知ろうとすることはしない。これがバカの壁である。」というような内容だったと思います。今思えば、私が子どもたちに一貫して伝えてきた「視点を変えると違うものが見えてくるんだよ」という言葉も脳科学の専門家でもある養老孟司氏の影響を強く受けていたことを改めて感じました。

さて、「脳科学」という言葉をこの番組で聞いて、昔ラジオでアフリカの難民キャンプでボランティアで働いていた日本人医師（脳科学においても専門の方であったと思います。）が次のような話をしていたことを思い出しました。

「・・・栄養失調でこのキャンプに来ている子どもも、日本の子どもも、体重の違いはあるが脳の大きさや重さ自体は変わらない。人の体はどんなに食料不足で栄養が摂取できなくても脳だけはその影響を受けないようなシステムになっている。・・・」

また、次のようにも述べていました。

「・・・ただ、それでも脳の大きさや重さに影響を受ける場合がある。それは、長期に渡って子ども時代に精神的な虐待を受けた場合である。ある海外の事例では、幼い時から長期に渡って精神的な虐待を受けていた子どもの脳を調べたところ、その子どもの脳は大きさも重さも同年代の子どもと比較してかなり萎縮していた。・・・」

このことから私は子どもの脳に必要な栄養は、いわゆる栄養素も重要ではあるがそれは優先順位の1番ではなく、1番は「愛情」と言えるのではないかということに気付きました。(※脳の萎縮とは長期に渡っての精神的な虐待であり、これは特殊な例であることは上記の医者も述べていました。)



脳の栄養は「愛情」であるらしいことは分かりました。では「愛情」はどのように与えれば良いのでしょうか。私は「愛情」は子どもの五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚 ※第六感もあるかもしれません。）を通じて脳へ届けられると考えます。良く聞く話として、「味噌汁の味（味覚）」「温かな両親の視線（視覚）」「励ましの言葉（聴覚）」などを大人になった時に思い出すということがあります。この話こそ、子どもの時の「愛情の五感を通じた記憶」が未だ脳の中に残っている証拠だと考えます。

ただ、「どのような愛情の与え方が良いのか、悪いのか」はその時代背景でも違いますし、子どもの実態でも変化すると思います。更には周囲の環境、各家庭の事情もありますし、子ども自身の成長でも変化をしていきます。よって、私は「愛情」の与え方の何が良くて何が悪いかなどという正解は無いと考えています。(※虐待は絶対にだめですが。)大切なことは、「正解を決めつけずに考え続ける」ということなのではないでしょうか。



昨年度、小学校より本格的に実施されている新学習指導要領には「連携・協働」というキーワードが随所に述べられています。教育には、家庭教育、学校教育、社会教育と様々な教育の形がありますが「愛情を子どもの脳に届ける」という視点でお互いに教育について考えることも一つの大切な視点であると私は考えております。

本校は中国という日本国内とは違う特殊な環境にある学校であることを踏まえ、これからも引き続き保護者の皆様のご理解とご協力を得ながら子どもの教育を推進いたしますので、引き続き保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 音楽発表会について

今年度の音楽発表会は、新型コロナウイルス感染の関係で保護者の皆様にはWEB上で子どもたちの発表を鑑賞して頂くことになっております。それぞれの学年が近接学年同士で期日を調整して発表し合い、その後、準備が整い次第ロイロノートにアップしていきます。※詳細については各学年のお便りをご覧になってください。